



鈴木貴晶
自由クラブ

ラーケーションの日について

問 昨年10月から最大2日の取得が可能であったが、本市の取得状況を伺う。

答 令和6年1月までの取得率は小学生が約15%、中学生が約7%であった。

問 ラーケーションの日モデル事業に係る予算の活用方法を伺う。

答 教職員の負担軽減のため、学校業務補助員等の人的補充を行う。

市役所のインボイス発行について

問 公共駐車場の管理人在不在時における対応を伺う。

答 料金所に提示されているQRコードやホームページから申込みを行い、後日メールにてインボイスを送付している。

問 ホームページでの周知やオンライン申請に対応してはどうか。

答 今後、制度対応状況についての専用ページを設けていく。公共駐車場以外のインボイスも、オンラインでの対応を図っていきたい。

メルカリShopsへの出品について

問 取組における行政視察の状況を伺う。

答 青森県や岡山市、内閣府など、大学も含め10以上の自治体等による視察が行われた。

問 今後の課題を伺う。

答 未利用者への利用促進、出品数確保、市民のリユース意識向上が課題である。



鈴木基夫
自由クラブ

イネーブリング・シティの実現について

問 イネーブリング財団が立ち上がるうとしていると聞いている。本市への誘致について考えを伺う。

答 横浜市立大学の武部先生が提唱する取組は、人々のウェルビーイングを達成するため、Happy（幸福）な体験を入口にして、アウトカムとしてHealthy（健康）を促進する道筋を作ろうとするものである。イネーブリング・シティの実現に向けた取組を進めるにあたり、そのような機関を誘致することができればより効果的なため、その際には強く働きかけをしていきたい。

問 イネーブリング・シティの実現に向け、横串政策として進める

際の体制等を伺う。

答 健康や医療の分野にとどまらず、政策に横串をさし、市役所全体で進める必要がある。本定例会にて市長直下にウェルビーイング推進課を設けることを提案し、スピード感をもって進めていきたい。

問 健康がまごおり21第3次計画の位置づけを上位にすべきではないか。

答 令和6年度に策定する第3次計画を上位計画と捉え、他の計画に健康と幸福の視点を盛り込み、企業連携、市民協創により、幸福感を感じながら健康で住み続けられる街の実現を目指していきたい。



千賀充能
自民党市議団

健康保険証について

問 保険証廃止の方針が示された。これに対する市の考えはどうか。

答 マイナ保険証の利用は、市民にとっては過去の健康・医療データに基づいたより適切な治療（多剤重複投薬・併用禁忌の防止）を低い窓口負担で受けられるなどのメリットがある。マイナ保険証によるオンライン資格確認は医療DXの基盤であることから、マイナ保険証の利用促進を進めていく考えである。

防災計画について

問 地区防災計画の必要性をどう考えるか。

答 災害リスクの周知、避難情報の伝達などの公助も含め、地域で住民等が支援し合い、予

め準備することが重要であることから、防災・減災対策として有効なものとして認識している。

問 ボランティアの受入れ、連携体制は。

答 災害ボランティアセンターの開設・運営には、関係各所の連携が重要となる。毎年訓練を通して連携の強化を図っている。

問 各課の連携は。

答 災害時にはインフラ関係部署や福祉部局、その他全ての部署がそれぞれの役割を持って業務に当たる。いずれも危機管理部門のみで行えるものはない。様々な訓練を通し、さらなる全庁的な連携の強化を推進していきたい。

